

柿生文化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話：070-1503-6401/044-988-0004

<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>

第 190 号

白井義胤翁
を訪ねて 11

白井の家系を辿って

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

白井家忠臣への想い

義胤翁は、円応寺住職から拝借した『千葉白井家譜』を読み込み、とりわけ身を賭して主君の遺児を守った二人の人物の行動に感銘を受け、白井家に対する 2 人の功績を後世に伝え、かつまた忠臣らに救われ生き永らえた白井家 6 代当主白井行胤（後興胤）の苦難の半生にも思いを馳せます。そうした思いが義胤翁をして白井の地に生活の拠点を設けさせることにつながったように思われます。

そこで、義胤翁が感銘を受けた白井秀胤編纂の『千葉白井家譜』を参照しながら、鎌倉室町時代の北総地方の豪族白井家の盛衰について、記しておくことに致します。最初に断っておきますが、『千葉白井家譜』は、白井家の末に連なる白井秀胤氏が事実のみに基づいて記したのではなく、事実とかくあって欲しいという氏の想いと、全くの創造の産物が絡み合って出来上がった書物のため、100% 事実ではないと断定できること、裏付け史料の見つけられないことも散見します。そのため建長寺の記録と照合できることなど、ある程度史料的に確認できることに絞って記します。

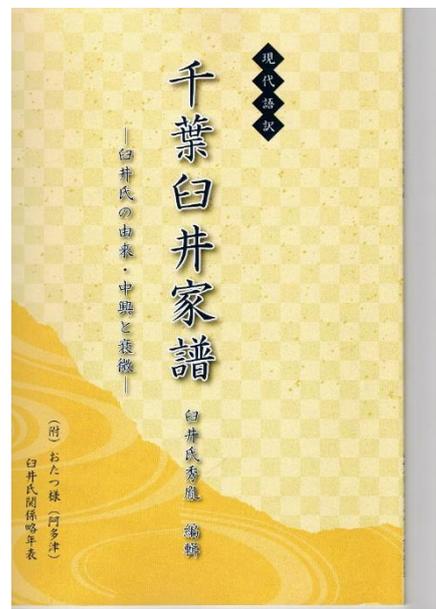
この稿の第 1 回に記した通り、白井家は、千葉介常兼の三男常康を祖とし、2 代常忠とその子康胤が千葉一統と共に頼朝公の旗揚げに加わり、白井の豪族としての地位を固めます。そんな白井氏が波乱の時を迎えたのが、5 代祐胤の時でした。祐胤が 25 歳の若さで 1314 年（正和 3 年）に病死したのです。時に嫡男竹若は数え年 3 歳でした。この行く末を案じた祐胤は、弟の志津城主胤氏に竹若が成人するまでの後見を依頼したのですが、当主が若死にした場合、実権は成人の身内に移るのが徳川政権が安定するまでの武家社会の常でした。果せるかな胤氏は、竹若を亡き者にして白井当主の座を奪う手はずを整えたのです。竹若の母代わりの下女（名をおたつと傳承されています）は、胤氏を疑い彼の陰謀の事実を掴むと、若君に忠実な岩戸胤安に事情を告げ、竹若を預けたのです。胤安は思案の末鎌倉に走り、鎌倉五山の筆頭建長寺の管主佛國国師に事情を告げて、竹若の身を預けます。国師は 2 年後に示寂されますが、国師に後事を託された弟子の佛眞禪師が竹若を育て、建長寺一山の僧たちと共に、成長した竹若に元服の式を催して、白井行胤を名乗らせたのです。

行胤は、時節を得ず、元服後も長く建長寺に寄食していたのですが、鎌倉幕府の滅亡を見届けると、育ての親の佛眞禪師と共に戦局の動きを観察して、最後の勝者が足利尊氏になると見定めたのです。ここに行胤は、1336 年（建武 3 年）摂津の戦いに敗れて勢力再編のために九州に退いた尊氏の下に、僅か 6 騎で駆け付けたのです。身支度や馬は建長寺一山が整えてくれたのです。尊氏は遠く鎌倉から駆け付けた行胤主従を厚遇し、勝利の暁には本領を安堵する旨を告げたのです。尊氏は 2 年後の 1338 年（暦應元年）征夷大將軍に就任すると、行胤を招いて白井の旧領を安堵し、名を興胤と改めるよう命じ、他方胤氏に対しては、白井の地を興胤に返還するよう命じたのです。

城主となった興胤は、行胤の旧名で豆州国清寺にあった育ての親の佛眞禪師の恩に報いたいと、師を招いて開山とし、居館の至近距離に瑞湖山円応寺を建立します。寺には所領の一部を寄進して、存立基盤の安定を図り、さらには自身の長男を僧籍に入れて、禪師の後継者としたのです。その後興胤を中興の祖とした白井家は、後北条家に仕え同家と運命を共にしたのです。

竹若の命を救った下女と岩戸胤安はどうなったか？乳母は事が露見した後、城を抜け出しますが、胤氏の家臣に見つかり惨殺されたと伝えられ、岩戸胤安も 4 年後の 1318 年（文保 2 年）胤氏に岩戸の陣屋を攻撃され、一族と共に滅びました。事実を知った興胤は胤安の霊を安置すべく岩戸城址に現在の金剛山西福寺を建立したのです。義胤翁は白井家中興の祖興胤公の波乱万丈の生涯と、下女と岩戸胤安の忠誠心に感銘を受けたのです。

続 く



『千葉白井家譜』の現代語訳

シリーズ
麻生区の地名 その 15

金程の地名

菊地恒雄(日本地名研究所 研究員)

麻生区の地名を紹介してきましたが、今回は最終回です。長いあいだお付き合いいただきありがとうございました。

金程村は細山村と一緒に行動する機会が多く、細山村の枝郷という性格がありました。鎌倉初期には小沢郷に属しており、金程・細山・菅と稲城市に及ぶ一帯を小沢原とも呼ばれていました。永禄2年(1559)の『小田原衆所領役帳』には「稲毛小沢郷 200貫 垺和(はがわ)又太郎」が所領しています。江戸時代に入って、寛永10年(1633)に旗本椿井(つばい)氏の知行地となり、正保年間の『武蔵田園簿』には「細山村 高190石余、金程村 高65石3斗余」とあり、椿井氏が明治に代わるまで細山と金程を知行していました。

金程の地名由来は諸説あります。金程と書くところから、金属に関係する地名と古くからいわれますが、金属滓は出土していません。ホトを女性の陰部と解釈する場合がありますが、陰(ホト)から山の窪んだところと解釈するのが正しいと思われます。火床(ホト)は金属を溶かす炉のことで、このような事例からさまざまな解釈が生まれてきます。

金程村の表側は平尾道に面しており、大きな谷戸とその谷戸につながる小谷戸から成り立っています。

金程村には4つの字がありました。山後(やまうしろ)、西平(にしびら)、夕木(ゆうき)、前田(まえだ)です。

村の北部細山の向原と千代ヶ丘に接するところが字山後です。通称地名にも後谷戸があり、一山越えた裏側に開けた谷戸がありました。その場所は細山の向原に編入されました。『新編武蔵風土記稿』に金程村の高札場が「村の中程字前原にあり」と載り、字山後と字前田の境にあったところから、この付近が村の中心であったと思われます。金程1番地に浅間社がありましたが、細山の神明社に合祀されました。現在金程会館のある場所に村の鎮守の杉山神社がありましたが、これも細山の神明社に合祀されました。土地区画整理事業が完結し、金程会館には字前田にあった蚕影神社が昭和61年に移されました。細山(千代ヶ丘)にもある勝坂の地名が金程にもあり、坂本は勝坂の下をいいます。山後の小名中の久保は西平との境にあり、一部が金程中学校敷地にあたります。

村の西に位置するのが字西平です。小名にも西平があります。ヒラ・ピラは緩い傾斜地のことで、向原と金程の境の坂が長坂、麻生川に沿う一帯を坂下といいます。県立麻生高等学校の敷地付近を凶法田(ずぼうだ)といい、平尾にも同じ地名があります。凶法田の意味はわかりません。高台の伊藤家の旧宅は川崎市日本民家園に移築され、近くにあった白山社は伊藤家の敷地内に祀られています。この付近の小さな坂に胴坂(胴切坂)、松木坂があり、字西平と字前田・夕木境の道を金程新道と呼ばれました。

村の南は字夕木です。夕木の意味はわかりません。通称地名に夕木田があり、古くから夕木と呼ばれていたことによります。他に砂田・大見谷戸・大津沢があります。小名の大門沢は大津沢かともいわれますがわかりません。夕木内に小沢原古戦場と呼ばれるところがありますが、小沢原古戦場は金程・細山・菅及び稲城市の広い範囲といわれ、夕木のこの場所は戦が決着し、ここから上杉軍を打ち破った北条軍がこの坂道(鎌倉街道・鎌倉道)を駆け登った故事に由来する場所と考えます。谷戸川が麻生川に注ぐ付近に平尾堰がありました。また、谷戸川の上流の夕木と前田との境に水車小屋があり、金程の伊藤家と平尾村人の共同の水車場であったといっています。

村の東は前田です。山後の字に前原があるので、その一帯が前田といったと思います。この付近は古くの村の中心であったという聞き取りをしていますが、これは高札場付近の前田のことと思われます。白山社の近くが白山下といい、谷戸川に架かる橋の名がどんどん橋でかなり水量があったと思われます。その近くに明治22年に筑波山の蚕影山神社から勘定した蚕影神社がありました。

村の東は前田です。山後の字に前原があるので、その一帯が前田といったと思います。この付近は古くの村の中心であったという聞き取りをしていますが、これは高札場付近の前田のことと思われます。白山社の近くが白山下といい、谷戸川に架かる橋の名がどんどん橋でかなり水量があったと思われます。その近くに明治22年に筑波山の蚕影山神社から勘定した蚕影神社がありました。



シリーズ
歴史の中の女性像 7

その1 ナイチンゲールの世界 (7)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

遂に立つ

1850年8月、30歳のフローレンス(通称フロー)は、家族が夏を過ごすリーハースト荘に帰りました。帰宅した彼女は、自らカイゼルベルスト慈善院での体験を話し、改めて病人や怪我人の世話をする仕事に就きたいと話したのです。話を聞いた母と姉は、再び激しく反対しました。社交界での評判が何より気になる母は、「あなたは、なんと恥知らずなの。どうしてナイチンゲール家の家名に泥を塗るようなことをしたがるの」と、フローを罵りました。姉のパーセノーブはヒステリーを起こし、それが収まると、今度は鬱状態になりました。こうなると、性格上フローは、姉の鬱症状が軽快するまで、自宅で姉と過ごす日々を送ることを選択するしかありません。心楽しめぬ日々がしばらく続きました。

半年が経過した1851年3月末、姉の症状も大幅に改善したのを見届け、フローは家を出て独立する決心を固めました。以前に紹介した父の姉、メイ伯母様が姪の決心を後押ししてくれたのです。こうして3月末、フローは再びカイゼルベルスト慈善院を訪れ、6月末までの3ヶ月院内の捨て子院に寝泊まりしながら研修を受けたのです。実際に働きながら厳しい研修を続けるのですから、自身の汚れ物を洗う間もないほどの忙しさでした。それでもフローは一切弱音をはかずに研修を終え、看護師試験にも一発で合格したのです。

カイゼルベルストでの研修を終えたフローは、フランスに移り、パリ市内と周辺地域の病院や施設を訪ねて、看護の実際を見せてもらうと共に、病院の組織と運営に強い関心を示して、どん欲に学んだのです。その後のフローの実績が明らかにしているのですが、彼女はマネージメントに長けており、病院や施設で働く人たちをまとめ、管理運営する組織についても、様々な質問をして自身の肥やしとしたのです。多忙な半年の学びの旅を終えて、フローはイギリスに戻り、イギリスの病院や施設が、フランスや南ドイツのそれに比べ、いかに遅れているかを痛感し、何とかしたい欲求を強めたのです。

母や姉との葛藤は続きましたが、この時期フローレンスの一番の悩みは、一番改革したいイギリスでの仕事がないことでした。そんなフローの様子に、ローマで知り合いその後親しくなったシドニー・ハーバード夫人のエリザベス(通称リズ)さんが助け舟を出してくれました。彼女が各方面の知人に声をかけてくれたおかげで、1853年夏フローに待望の仕事が舞い込みました。ロンドンのハーレー街にある慈善施設が、貧しい女性のための病院の施設と運営を改革することを決め、改革に相応しい施設長を探していたのです。その施設長のポストに、フローが推薦されたのです。仕事は無給でしたが、病院のことはすべて任せるという条件でした。やりがいはいありますが大変な仕事です。しかしフローは喜んで引き受けました。困難に立ち向かう覚悟もせず、看護の仕事ライフワークになどできる時代でないことは、十分承知していたからです。1853年8月、フローはロンドンに移り住み、病院経営と改革の仕事に取り組みました。

彼女は看護の現場にも立って、看護師たちの話も聞き、看護師給与の引き上げを実現し、同時に看護師たちの手抜きは絶対に許さないと厳しく言明し、かつ監督したのです。イギリスは最近まで「一国二国民」と揶揄されたほど上流階級と庶民の間の階級格差が目立つ国でしたが、フローは貧

民だからと看護を疎かにしたり、不衛生な状態に放置することは絶対に認めず、施設や看護内容の改善を急いだのです。患者に粗末でも清潔なベッドを用意すること、栄養のつく食事を与えること、病室と看護師詰所を繋ぐベルを付けることなどが、次々に実行に移されました。極め付きが人種や宗教による患者の差別を撤廃したことでした。病人を誰も差別しない。貧者のための慈善病院はかくあるべしという模範的な病院がフローの手で動き出したのです。病院の理事たちの口から、フローに関する賞賛と驚きの噂が社交界に届きます。結果としてフローの病院には、社交界から多額の寄付が集まるようになったのです。ハーレー街の慈善病院でのフローの改革が軌道に乗り始めた1853年(この年はペリーの黒船が浦賀にやってきた年です)10月、イギリスから遠く離れたヨーロッパの東の外れで、後のクリミア戦争につながるロシアとトルコ(当時のオスマン帝国)の戦争(露土戦争)が静かに始まっていたのです。

続 く



19世紀後半の小児病院の様子

柿生郷土史料館友の会
第14回史跡見学バスの旅

佐倉・白井への旅

～歴史民俗博物館と白井義胤氏の源流を訪ねて～

日時 2024年4月18日(木)

集合：7時45分 新百合丘駅北口(21ビル前の歩道)

解散：18時頃 新百合丘 その後柿生駅近く

募集：45名

参加費：8,500円(昼食付き)

申し込み：往復はがきに必要事項を記入の上、柿生郷土史料館まで
または marat17930713@mail.fcservice.jp まで、メールで

必要事項：参加者全員の郵便番号、住所、氏名、年齢、
連絡先電話番号

送付先：215-0021 川崎市麻生区上麻生 6-40-1 柿生中学校内
柿生郷土史料館へ。

(お近くの史料館支援委員にお渡しいただいても結構です)

申込締切：3月25日(月)

主な見学先：

国立歴史民俗博物館：原始時代～現代までの5室と民俗の部屋1室の6室の
展示空間を持つ国内最大の歴史博物館。ゆったり2時間見学しま
す。

佐倉城址：鎌倉・室町期に北総地域の有力豪族白井氏の居城址。

円応寺：白井家6代当主興胤が創建した白井家の菩提寺。墓域は義胤氏が
整備した。ご住職のお話を伺えたらと、現在交渉中。



円応寺(創建 白井行胤)



白井家累代の墓(白井義胤翁建立)

問合せ先：小林基男 080-5513-5154 またはメール marat17930713@mail.fcservice.jp

柿生郷土史料館催物案内 [参加自由、入場無料]

◎開館日：3月3・10・17・24日(日曜日) 4月6・20・27日(土曜日)

◎開館時間：午前10時～午後3時

第91回カルチャーセミナー

大塚・歳勝土(さいかちど)遺跡 の稲作について

講師：橋口豊氏(横浜市歴史博物館学芸員)
日時：4月27日(土) 13時30分～15時30分
会場：柿生郷土史料館(柿生中学校内)特別展示室
参加費：無料 どなたでも参加できます。

大塚・歳勝土遺跡は横浜市歴史博物館に隣接した
一帯に、遺跡公園として整備されています。大塚遺跡は、
弥生時代中期のほぼ完全な形で全体像が確認できた、
全国的にも大変珍しい環濠集落で、歳勝土遺跡は大塚遺跡の墓域として作られた
墓地遺跡です。

遺跡からは、籾をまとった状態での米も少なからず発掘されており、
当時周辺で稲作が普及していたことがわかります。

橋口学芸員は、弥生期の稲作の研究を続けられており、
昨今の研究成果を踏まえて、当時の稲作について分かりやすく
お話くださいます。

皆様の参加をお待ちしています。



大塚遺跡の復元家屋



歳勝土遺跡(墓域が示されています)

『王禅寺村 御用留記帳』 販売中

史料館開館日に受付にて販売いたします。

売価 1,000円

郵送ご希望の方は、葉書または史料館ホームページのお問合せから、住所・氏名・連絡先電話番号・希望冊数を明記の上申し込みください。
(送料400円 代金1,400円は書籍に同封の振込先への後払い)

連絡先：215-0021 川崎市麻生区上麻生 6-40-1 柿生中学校内 柿生郷土史料館

文久2年と3年(1862,63年)について王禅寺村名主が、領主である増上寺や関東取締出役などからの廻状や村からの願い書などを書き留めた記録です。